

【調査結果】

1 作付面積

令和6年産水稻の作付面積（子実用）は9万5,000 ha で、前年産に比べ1,700 ha 増加した。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は8万3,700 ha となった。

2 作柄概況

全もみ数は5月下旬から6月上旬にかけて一時日照不足となったものの、以降はおおむね高温・多照で経過したことから「やや多い」となった。登熟は、7月下旬から8月上旬に一時日照不足となったものの、以降は高温傾向が続いたことにより順調に進んだ。

この結果、北海道の10a当たり収量は592 kg となった。また、農家等が使用しているふるい目幅（1.90 mm）ベースの作況指数は103 となった。

3 収穫量

以上の結果、北海道の収穫量（子実用）は56万2,400 t となった。

このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は49万5,500 t となった。

表2 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量
（作柄表示地帯別）

北海道・ 作柄表示地帯	作付面積 (子実用)			10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	農家等が使用している ふるい目幅で選別 (1.90mm)			収 穫 量 (子実用) (1.70mm)				玄米重 歩合
					10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況指数					
	前年産との比較				前年産との比較							
	①	対差	対比	②	③	④	⑤=③/④	⑥=①×②	対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	kg		t	t	%	%	
北海道	95,000	1,700	102	592	562	544	103	562,400	22,200	104	98.2	
石 狩	6,670	210	103	566	540	526	103	37,800	1,800	105	98.5	
南 空 知	14,700	500	104	578	544	530	103	85,000	4,900	106	98.0	
北 空 知	25,700	500	102	616	585	566	103	158,300	8,600	106	98.6	
上 川	27,800	300	101	619	592	570	104	172,100	4,600	103	98.0	
留 萌	3,810	△ 80	98	570	544	520	105	21,700	△ 100	100	98.0	
渡島・檜山	6,520	60	101	528	489	468	104	34,400	300	101	97.8	
後 志	4,400	150	104	548	522	513	102	24,100	900	104	98.4	
胆振・日高	4,550	70	102	529	503	492	102	24,100	800	103	98.6	
オホーツク・十勝	858	△ 34	96	572	547	504	109	4,910	△ 200	96	97.8	

- 注：1 ①作付面積（子実用）及び⑥収穫量（子実用）については、四捨五入の関係で合計値と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 農家等が使用しているふるい目幅で選別した③10a 当たり収量、④10a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、過去5か年に北海道の農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（1.90mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 3 ②10a 当たり収量及び⑥収穫量（子実用）は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 4 玄米重歩合は、1.70mm のふるい目幅で選別された10a 当たり玄米重及び粗玄米重より推計したものである。

表 3 水稲（子実用）の年次別推移（北海道）

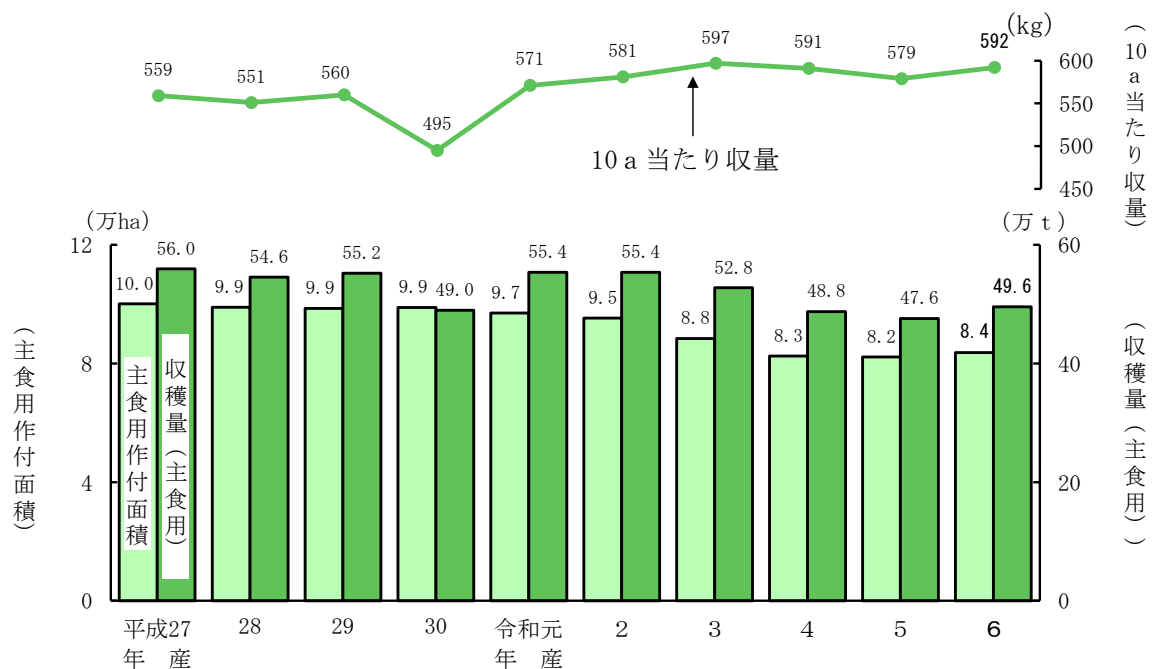
年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 27 年産	107,800	559	602,600	100,100	559,600	104
28	105,000	551	578,600	99,000	545,500	102
29	103,900	560	581,800	98,600	552,200	103
30	104,000	495	514,800	98,900	489,600	90
令和 元	103,000	571	588,100	97,000	553,900	104
2	102,300	581	594,400	95,300	553,700	106
3	96,100	597	573,700	88,400	527,700	108
4	93,600	591	553,200	82,500	487,600	106
5	93,300	579	540,200	82,200	475,900	104
6	95,000	592	562,400	83,700	495,500	103

資料：農林水産省統計部『作物統計』（表 6、7 についても同じ。）

注：1 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する 10 a 当たり収量の比率であり、平成 27 年産から令和元年産までは、過去 5 か年に北海道の農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでの目幅（1.85mm）で選別された玄米を基に算出していた。令和 2 年産以降は、過去 5 か年に北海道の農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（1.90mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。

図 2 水稲の主食用作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（北海道）



注：10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。

4 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）（北海道）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（10ページ【参考2】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表 4 ふるい目幅別重量分布状況（子実用）

単位 { 重量割合、平均値：％
対 平 均 差：ポイント

北海道・ 作柄表示地帯	区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～1.95	1.95 ～2.00	2.00mm 以 上
北海道	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	3.8	6.9	84.3
	平均値	100.0	0.6	0.9	1.2	1.9	3.8	6.5	85.1
	対平均差	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.4	△ 0.8
石 狩	重量割合	100.0	0.6	0.9	1.1	2.0	4.0	7.4	84.0
	平均値	100.0	0.6	0.9	1.1	2.1	4.3	8.0	83.0
	対平均差	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.6	1.0
南 空 知	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.4	2.4	4.6	8.2	81.4
	平均値	100.0	0.7	1.0	1.2	2.1	4.5	8.1	82.4
	対平均差	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1	△ 1.0
北 空 知	重量割合	100.0	0.6	0.9	1.2	2.3	3.9	6.9	84.2
	平均値	100.0	0.5	0.8	1.1	1.9	3.5	5.6	86.6
	対平均差	0.0	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	1.3	△ 2.4
上 川	重量割合	100.0	0.6	0.9	1.0	1.9	2.7	4.9	88.0
	平均値	100.0	0.5	0.9	1.1	1.4	2.9	4.7	88.5
	対平均差	0.0	0.1	0.0	△ 0.1	0.5	△ 0.2	0.2	△ 0.5
留 萌	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.0	2.0	3.3	5.1	87.0
	平均値	100.0	0.5	0.9	1.1	1.6	3.1	4.8	88.0
	対平均差	0.0	0.1	0.1	△ 0.1	0.4	0.2	0.3	△ 1.0
渡島・檜山	重量割合	100.0	0.7	1.3	2.2	3.2	7.3	13.3	72.0
	平均値	100.0	0.7	1.4	2.2	3.9	7.1	13.8	70.9
	対平均差	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.7	0.2	△ 0.5	1.1
後 志	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.0	3.8	6.8	84.6
	平均値	100.0	0.5	0.9	1.0	1.9	3.8	7.3	84.6
	対平均差	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	△ 0.5	0.0
胆 振・日 高	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.1	4.1	7.8	83.2
	平均値	100.0	0.5	0.9	1.1	2.1	4.1	7.9	83.4
	対平均差	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.2
オホーツク・十勝	重量割合	100.0	0.4	0.9	1.0	2.1	3.4	5.8	86.4
	平均値	100.0	0.7	1.4	1.6	2.9	3.7	6.2	83.5
	対平均差	0.0	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.6	△ 0.8	△ 0.3	△ 0.4	2.9

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表 5 ふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

北海道・ 作柄表示地帯	区 分	ふるい目幅別 10 a 当たり収量 (kg)						
		1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	1.95mm 以 上	2.00mm 以 上
北海道	10 a 当たり収量 (kg)	592	588	583	575	562	540	499
	収穫量（子実用） (t)	562,400	559,000	553,400	546,700	534,300	512,900	474,100
石 狩	10 a 当たり収量 (kg)	566	563	558	551	540	517	475
	収穫量（子実用） (t)	37,800	37,600	37,200	36,800	36,100	34,500	31,800
南 空 知	10 a 当たり収量 (kg)	578	573	566	558	544	518	470
	収穫量（子実用） (t)	85,000	84,300	83,300	82,100	80,100	76,200	69,200
北 空 知	10 a 当たり収量 (kg)	616	612	607	599	585	561	519
	収穫量（子実用） (t)	158,300	157,400	155,900	154,000	150,400	144,200	133,300
上 川	10 a 当たり収量 (kg)	619	615	610	604	592	575	545
	収穫量（子実用） (t)	172,100	171,100	169,500	167,800	164,500	159,900	151,400
留 萌	10 a 当たり収量 (kg)	570	567	561	555	544	525	496
	収穫量（子実用） (t)	21,700	21,600	21,400	21,100	20,700	20,000	18,900
渡島・檜 山	10 a 当たり収量 (kg)	528	524	517	506	489	450	380
	収穫量（子実用） (t)	34,400	34,200	33,700	33,000	31,900	29,300	24,800
後 志	10 a 当たり収量 (kg)	548	545	539	533	522	501	464
	収穫量（子実用） (t)	24,100	24,000	23,700	23,400	22,900	22,000	20,400
胆 振・日 高	10 a 当たり収量 (kg)	529	526	521	514	503	481	440
	収穫量（子実用） (t)	24,100	24,000	23,700	23,400	22,900	21,900	20,100
オホーツク・十勝	10 a 当たり収量 (kg)	572	570	565	559	547	527	494
	収穫量（子実用） (t)	4,910	4,890	4,850	4,800	4,690	4,530	4,240

注：1 ふるい目幅別 10 a 当たり収量とは、北海道及び作柄表示地帯別の 10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである（以下同じ。）。

2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、北海道及び作柄表示地帯別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである（以下同じ。）。

表 6 ふるい目幅別重量分布状況の年次別推移（北海道）

単位 { 重量割合、平均値：％
対 平 均 差：ポイント

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～1.95	1.95 ～2.00	2.00mm 以上
平成27年産	100.0	0.6	1.0	1.2	1.7	3.5	6.6	85.4
28	100.0	0.6	1.0	1.2	1.9	4.0	7.2	84.1
29	100.0	0.6	0.8	1.1	1.6	3.4	5.9	86.6
30	100.0	0.6	1.1	1.4	2.1	4.4	7.1	83.3
令和元	100.0	0.5	1.0	1.3	2.4	4.9	8.4	81.5
2	100.0	0.5	0.8	1.1	1.7	3.5	6.4	86.0
3	100.0	0.6	0.9	1.2	1.9	3.1	5.5	86.8
4	100.0	0.7	1.0	1.2	1.9	3.8	6.6	84.8
5	100.0	0.5	0.8	1.1	1.8	3.5	5.7	86.6
6	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	3.8	6.9	84.3
平 均 値	100.0	0.6	0.9	1.2	1.9	3.8	6.5	85.1
対平均差	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.4	△ 0.8

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表 7 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の年次別推移（北海道）

年 産	区 分	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	1.95mm 以 上	2.00mm 以 上
平成27年産	10 a 当たり収量 (kg)	559	556	550	543	534	514	477
	収 穫 量 (t)	602,600	599,000	593,000	585,700	575,500	554,400	514,600
28	10 a 当たり収量 (kg)	551	548	542	536	525	503	463
	収 穫 量 (t)	578,600	575,100	569,300	562,400	551,400	528,300	486,600
29	10 a 当たり収量 (kg)	560	557	552	546	537	518	485
	収 穫 量 (t)	581,800	578,300	573,700	567,300	557,900	538,200	503,800
30	10 a 当たり収量 (kg)	495	492	487	480	469	447	412
	収 穫 量 (t)	514,800	511,700	506,000	498,800	488,000	465,400	428,800
令和元	10 a 当たり収量 (kg)	571	568	562	555	541	513	465
	収 穫 量 (t)	588,100	585,200	579,300	571,600	557,500	528,700	479,300
2	10 a 当たり収量 (kg)	581	578	573	567	557	537	500
	収 穫 量 (t)	594,400	591,400	586,700	580,100	570,000	549,200	511,200
3	10 a 当たり収量 (kg)	597	593	588	581	570	551	518
	収 穫 量 (t)	573,700	570,300	565,100	558,200	547,300	529,500	498,000
4	10 a 当たり収量 (kg)	591	587	581	574	563	540	501
	収 穫 量 (t)	553,200	549,300	543,800	537,200	526,600	505,600	469,100
5	10 a 当たり収量 (kg)	579	576	571	565	555	534	501
	収 穫 量 (t)	540,200	537,500	533,200	527,200	517,500	498,600	467,800
6	10 a 当たり収量 (kg)	592	588	583	575	562	540	499
	収 穫 量 (t)	562,400	559,000	553,400	546,700	534,300	512,900	474,100
	収 穫 量 対 前 年 比 (%)	104	104	104	104	103	103	101

表 8 令和 6 年産水稻の作況標本筆の 10 a 当たり玄米重の分布状況（北海道）

単位 { 筆数割合、前年値：％
対 前 年 差：ポイント

区分	計	100kg未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg以上
筆数割合	100.0	—	—	—	1.8	9.0	39.6	39.6	9.8	0.2
前年値	100.0	—	—	0.3	1.0	9.8	45.0	38.8	4.8	0.3
対前年差	0.0	—	—	△ 0.3	0.8 △	0.8 △	5.4	0.8	5.0 △	0.1

注：10 a 当たり玄米重は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である（図 3 についても同じ。）。

図 3 令和 6 年産水稻の作況標本筆の 10 a 当たり玄米重の分布状況（北海道）

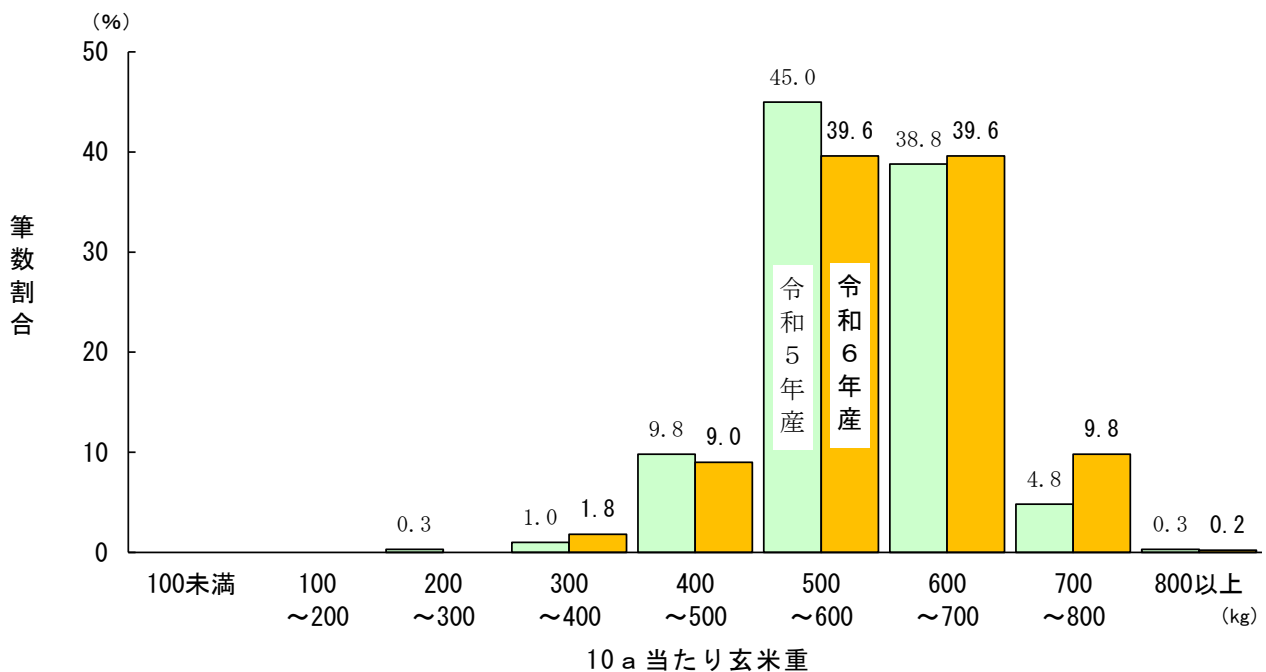


表 9 農家等が使用したふるい目幅の分布
【令和 6 年産水稻作況標本筆農家からの聞き取り結果】

単位：％

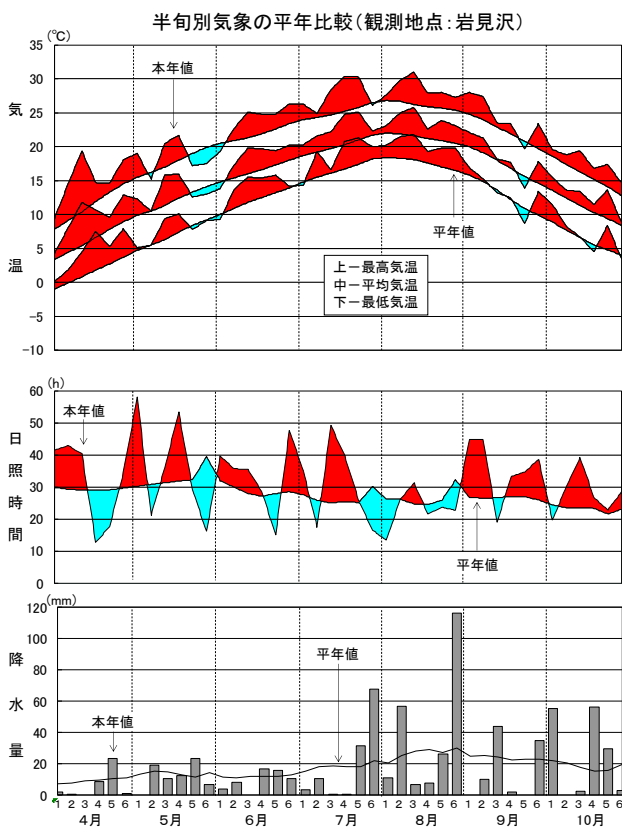
区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
北 海 道	100.0	0.2	—	0.8	21.0	75.7	2.3

注： 農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本筆農家が使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

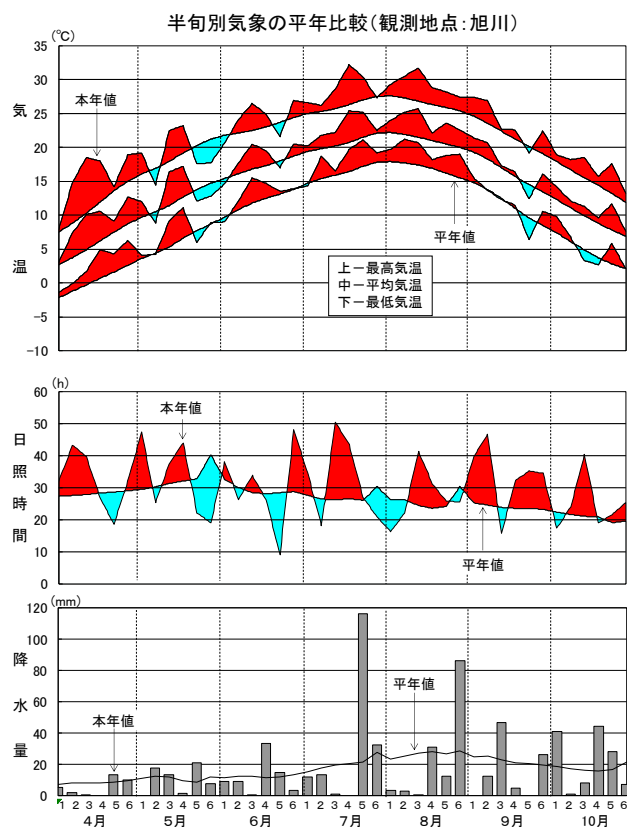
【気象経過】

半旬別気象経過

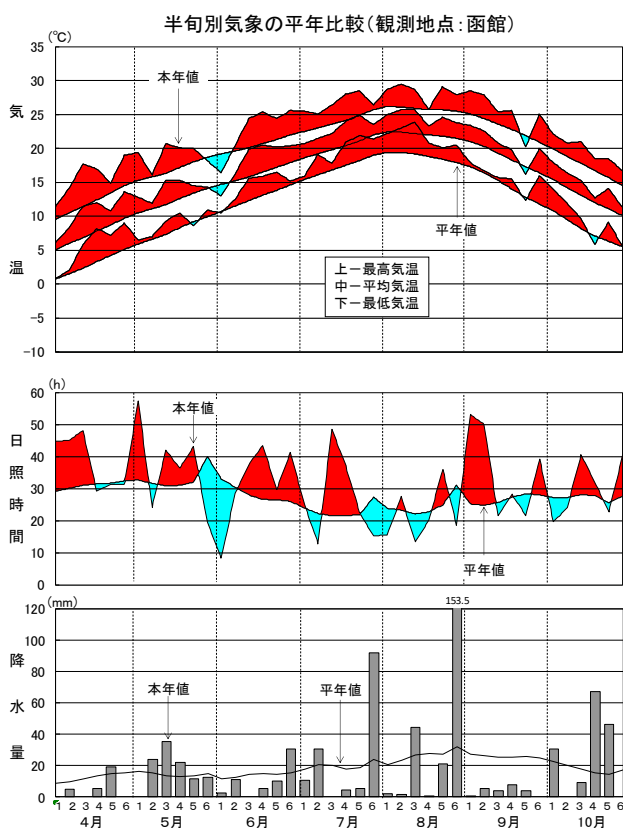
南空知



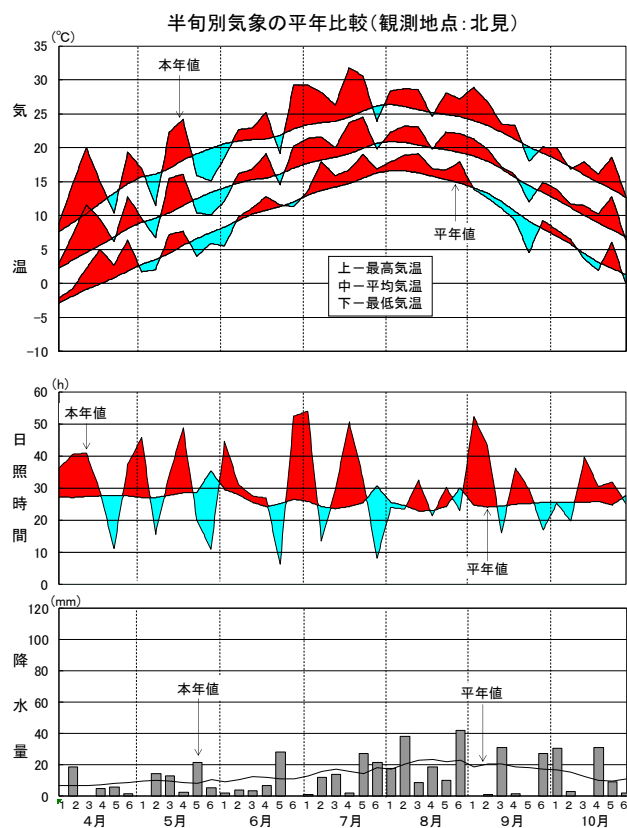
上川



渡島・檜山

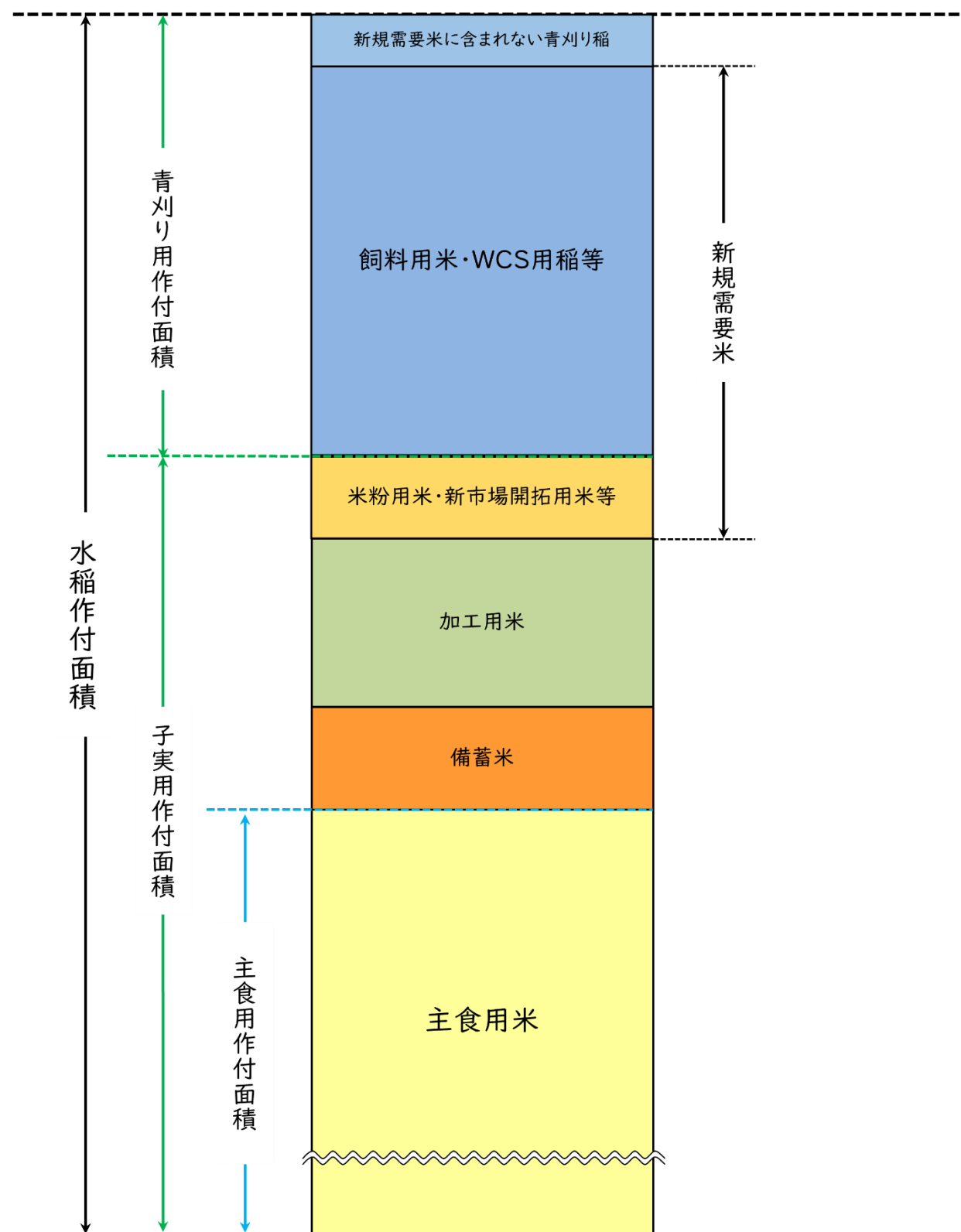


オホーツク・十勝



資料：気象庁のアメダスデータを基に、北海道農政事務所で作成。

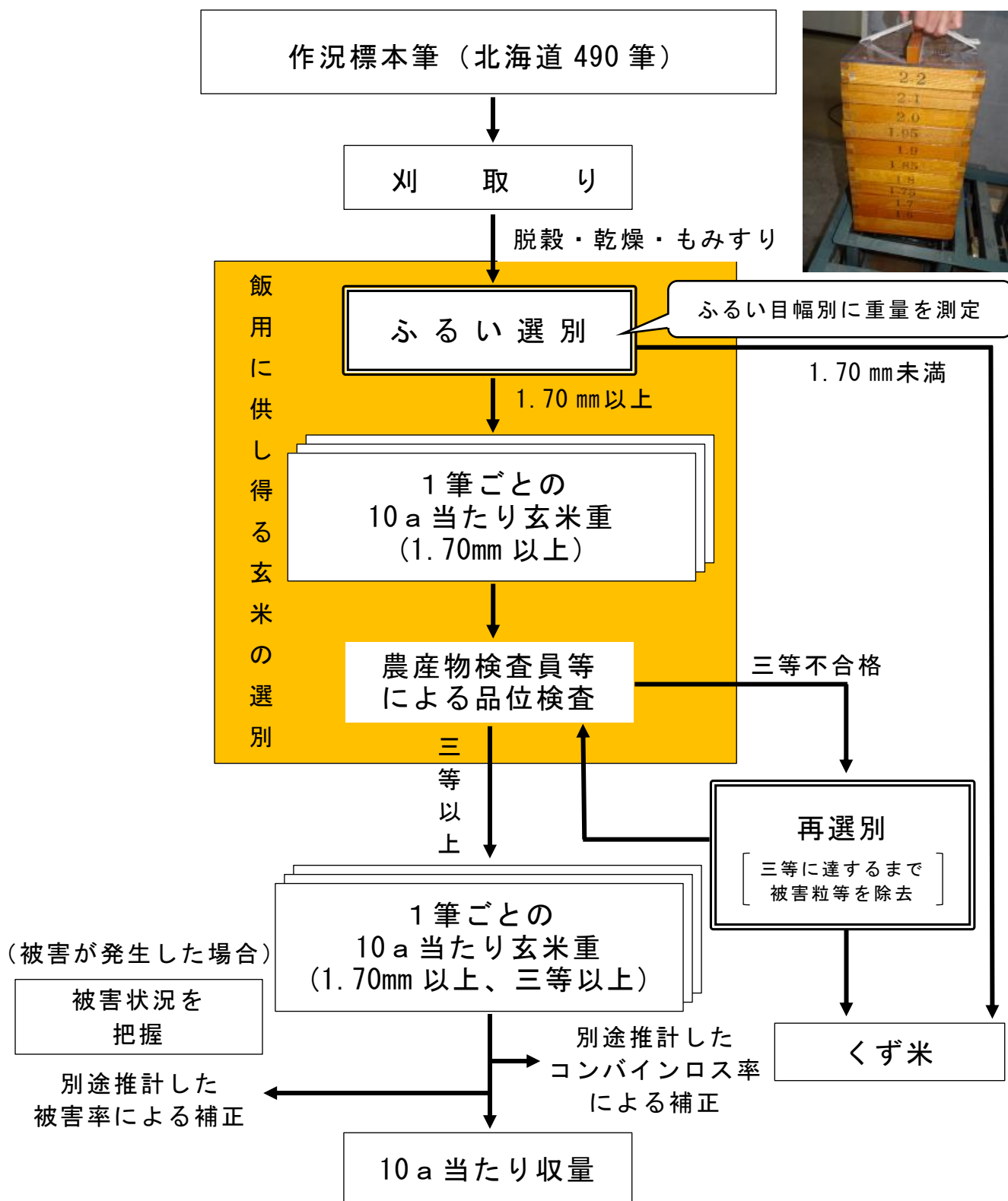
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考 3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を^{ふで}筆と呼ぶ。）は、北海道の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北海道で 490 筆）調査している。

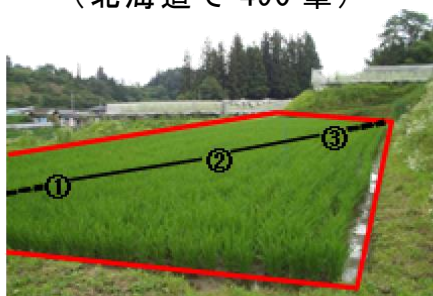
北海道すべての土地
（母集団）



標本単位区
（400m四方の土地）



作況標本筆
（北海道で 490 筆）



1 北海道のすべての土地を400m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成 6 年法律第 113 号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和 22 年法律第 185 号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量等を明らかにすることにより、米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況の検証、経営所得安定対策の交付金算定、農作物共済事業の適切な運営等のための農政の基礎資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、北海道を対象に実施している。

(2) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された耕地

イ 収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

ア 作付面積調査

標本単位区：1,352 単位区

イ 収穫量調査

作況標本筆：490 筆

3 調査事項

水稻の作付面積、用途別面積、10 a 当たり収量、収穫量、穂数・もみ数等の生育状況、登熟状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和 6 年 7 月 15 日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/> 】

(2) 収穫量調査

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/ 】

6 作柄表示地帯

北海道における作柄表示地帯とその範囲は、次表のとおりである。

作 柄 表 示 地 帯	対 象 地 域
石 狩	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩振興局管内の町村
南 空 知	夕張市、岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町
北 空 知	芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町
上 川	旭川市、稚内市、士別市、名寄市、富良野市、上川総合振興局管内の町村、宗谷総合振興局管内の町村
留 萌	留萌市、留萌振興局管内の町村
渡 島 ・ 檜 山	函館市、北斗市、渡島総合振興局管内の町、檜山振興局管内の町
後 志	小樽市、後志総合振興局管内の町村
胆 振 ・ 日 高	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、胆振総合振興局管内の町、日高振興局管内の町
オホーツク・十勝	釧路市、帯広市、北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内の町村、十勝総合振興局管内の町村、釧路総合振興局管内の町村、根室振興局管内の町

7 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用等として用いられるもの（稲発酵粗飼料用稲（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米及びバイオ燃料用米をいう。

(2) 「作況指数」とは、作柄の良否を表す指標のことをいい、10 a 当たり平年収量に対する 10 a 当たり収量（又は予想収量）の比率である。

なお、平成 26 年産以前は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成 27 年産から令和元年産までは、過去 5 か年に北海道の農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでの目幅（1.85mm）で選別された玄米を基に算出していた。令和 2 年産以降は、過去 5 か年に北海道の農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（1.90mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。

また、作柄の良否（多少）としての表示区分は以下の通りである。

良 否 (多 少)	不 良 (少ない)	やや不良 (やや少ない)	平年並み	やや良 (やや多い)	良 (多 い)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (3) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移、被害の発生状況等を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合い、作付変動等を考慮して、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される 10 a 当たり収量をいう。

8 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中に用いた記号は次のとおりである。

「0.0」：増減がないもの

「－」：事実のないもの

「△」：負数又は減少したもの

- (3) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和6年産水稻の収穫量（北海道）」（北海道農政事務所）による旨を記載してください。

【ホームページ掲載案内】

この統計調査結果は、北海道農政事務所ホームページの中の「令和6年度農林水産統計公表資料（北海道）」で御覧いただけます。

「令和6年度農林水産統計公表資料（北海道）」

【 <https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/> 】



「北海道の気象と作柄」

【 https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/seisan/kisyo_sakugara/ 】



— お問い合わせ先 —

◎本統計調査結果について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部
生産流通消費統計課

電 話：011-330-8820

◎農林水産統計全般について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部
統計企画課

電 話：011-330-8818



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



データの力で。

農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

